

新しい政治を切り開く党躍進の年に



国民が希望の持てる年に——佐々木憲昭（衆院議員）、河江明美両衆院比例東海候補、もとむら伸子参院愛知選挙区候補らは7日、名古屋駅前で訴えました。

佐々木議員はまず、昨年の震災を経験し、震災復興、もう不安のない安心できる平和な社会をつくりたいと願っている方が多いのではないだろうか。こうした人の願いに答えるために全力でがんばりましょう」と訴えを始まりました。そして、国会の質問で財務大臣が消費税の5%増税のうち、社会保障の改善に回るのは1%分しか

河江候補は、いまだに震災や原発事故で仮設住宅に暮らしている方は33万人とのべ、党の救援ボランティアの取り組みを紹介しながら、復興はまだまだこれから。皆さんと力を合わせて生活と生業の再建にがんばってまいります」と決意を述べました。そして、民主党政権の消費税増税を批判し、今一番やらなければならぬのは、暮らしを守る政治に変えることです。若者や女性の2人に1人は非正規雇用で、年収2百万円に満たない人がたくさんいます。雇用は正社員が当たり前の社会に変えましょう」と訴えました。

もとむら候補も野田内閣の衆院比例定数の80削減にたいし、民意を正確に反映し、消費税増税反対の国民の声を削るもの」と批判し、無駄な政党助成金を減らせと訴えました。

豊川稲荷で井上参院議員、もとむら愛知候補

井上哲士参院議員は、初詣客でにぎわう愛知県の豊川稲荷前で3日、もとむら伸子参院愛知選挙区候補や東三河地域の地方議員といっしょに新年のあいさつをおこないました。

井上議員は、TPP参加や社会保障削減・消費税増税をすすめる野田内閣を厳しく批判し、「国民の立場で一貫してがんばってきた日本共産党の前進で政治を変えよう」と訴えました。

名古屋市から来て訴えを聞いていた自営業の男性（62）は「不況で売上げが毎年減っている。消費税が上がったら会社が潰れる。増税は絶対やめてほしい」と話しました。

